



Subaru

男声合唱団 ニュース№584 '16. 10. 2

「末廣亜矢子特別レッスン」開催！ 「日日草」を“気”を使った声で練習しました！

□9月30日(金)18:00~20:30ねむかホールで昂の「末廣亜矢子声楽特別レッスン」が開催されました。最初に本並先生の指揮、静さんのピアノ伴奏で、30分ほど、「日日草」(2004/7/2改訂版)の楽譜をあわせ読みながら合唱練習しました。その後約2時間、末廣先生のレッスンがありました。参加者は全37名。なお、今日は女声合唱団「ワインコーラス」より4名の女性が、末廣先生のレッスンを勉強するために見学に来られました。



□末廣先生はレッスン冒頭、空気を自然と振動させて声を出す準備のために、まずいつもの「末廣(吉田)式声楽のための足のツボマッサージ」を左右の足で念入りに行いました。

□次に「きょうのレッスンのテーマ」だとして、「きょうは歌うにあたって、まず「声を出そう」ではなくて、「“気”を母音“いー”“あー”の色に染める」考え方で自分のまわりの空気を響かせよう！」と実際の「いー」「あー」の音を響かせあいました。

・「のど」「胸」「おなか」「頭の上」それぞれの”気”の響き方をわかってほしい。無欲にして！「いい声出そう！」と欲を出すと、声は響かない！自分のまわりの気をつかんで、”ぱっと”放す。欲をなくして、それぞれの部位の気をつかんで、ぱっと放す。開放する。その時一緒に母音と子音を出す。母音で気を響かせる！いい空気が響く。そうすれば響いた声になる。

- ・「曲想」については、どの気を使うか？どうブレンドするか？で決まる。ここが面白いところ。高い音の場合、おなかで抑えないと上ずった声になる。抑えすぎると声が響かないし、音が下がる。どの程度おなかの気を使うか？面白いところ etc.



(この「末廣式発声法」はなかなか習得困難な理解のむつかしい「理論」の「実践」です。

例えば、**今回末廣先生が使われた「気」についても、どう理解しましょうか？**

「「気」は「氣功」で言う「氣」でしょうか。陰陽五行によれば、「氣はこの世の全てのエネルギーの総称であり、またそのエネルギーを集めたり散じさせる力もまた氣である」(Wikipediaより)ということらしいですが、末廣先生がどういう意味で「氣」を使っておられるかは分かりません。

私が感じ取った範囲で言えば、氣のエネルギーを感じ、「氣息」を整えることにより、意識した体の部位をリラックスさせ、エネルギーを集め、そのエネルギーを、自身の頭や自身の体の周囲にエネルギー体として漂わせ、その反射によって、自身の生体能力をさらに高めると同時に、他者にもそのエネルギーを伝播させる（もちろん音楽をつうじて）ということでしょうか。よくは分かりませんけど。

「氣」を養えば、リラックスにより遠くまで響く伸びのよい声が得られ、また、自身の発する「氣」の「氣配」が遠くの聴衆にもとどいて、感動の演奏が得られる。信じて行えば効果があり、疑えば、何の効果も生じないのが世の常ということではないでしょうか。」（広報部編集長談）

□「日日草」の合唱レッスンでは、スラーの取り方、フレーズのきり方・詞の強弱を中心にレッスン生に注意を向けさせ、同時に「悲しい」「嬉しい」「笑ったり」「泣ないたり」「望んだり」「諦めたり」「憎んだり」「愛したり」のそれぞれをどう感じ、どう表現して、聴く人にその気持ちを伝えるのか、実際に歌って「聴かせて」いただきました。

**「辺野古・高江」沖縄支援ツアーに行ってきました。！
大阪のうたごえを代表して 9月25日～28日**



大阪のうたごえ「沖縄支援ツアー」に参加して

男声合唱団昴 伊藤 知

9月25~28日の3泊4日(実質は、中2日間)、1971年に歌った歌劇「沖縄」の舞台となった伊江島の戦跡や団結小屋などへも行くというので参加。ところが台風17号の影響で結局伊江島へ行けず残念、しかし多くのことを学ばせてもらいました。

参加されたのは大阪のうたごえ有志とその友人ら総勢45名(昴からは、石橋・岡邑・立川・伊藤の4名)が参加、以前クラボウ裁判でお世話になった元中央区労連議長の山崎良郷氏(原水協で活躍中)ご夫妻や八尾平和委員会の奥村正憲氏らも参加されていました。バス移動中、奥村氏から沖縄の米軍基地背景や現状の問題点の詳細を、山崎氏からは3年前から兆候が見えていた中国政府の核政策転換問題などホットな話題も含め縷々説明をいただき、うたごえメンバーだけでは得られない貴重な学習機会でした。

大阪から現地へ去年から居住して(永住覚悟?)支援しているという福山さんにガイドを依頼、辺野古・高江など沖縄のたたかい最前線へ案内してもらい、周辺の地形や貴重な自然環境を守っていく重要性、高江ヘリパッドによる地域住民の生活環境破壊についてもレクチャーを受けました。たたかいの進め方について暴力的な戦術を排除していく現地沖縄住民を中心とした粘り強い話し合いが続けられていることや、高江での座り込みには北海道やスエーデンからも若者が駆けつけ現地で友情がはぐくまれている話など、SNSによって沖縄が地球環境を守る最前線の一つとして世界中の注目を集めていることなども聴きました。

「支援ツアー」ということなので、現地の座り込みにも参加するのかなと少しは意気込んでいたのですが、台風接近による強風が吹く中、辺野古のテントは畳まれ誰も居ない中テントの鉄骨だけが立っていました。ただカヌー小屋には東京の労組で来たという30人くらいの若者たちが現地の責任者からレクチャーを受けていました。

現地でガイドの福山さんから詳しい説明を聞き、大阪のうたごえは持参された支援の寄せ書きや募金をカヌー小屋の担当者へ手渡し、キャンプシュワブ(辺野古隣接の米軍弾薬庫基地)へ移動。

キャンプシュワブのメインゲート前に立ち並んでいるテントの一画では小集会が開かれていました。メインゲートは扉の内側に警備の米兵が外側に民間のガードマンらが立ち、金網の内側には近づく者を撮影する係なのかビデオカメラを構えたスタッフが見え隠れ。

ゲート前道路を隔てたテント横に大阪のうたごえ支援ツアー参加者が並び、持参した横断幕を掲げて「沖縄を返せ」と「平和の沖縄を返せ」を歌って抗議の意思表示、スケジュールの関係でこの2曲を歌っただけで後ろ髪を引かれる思いでしたが、貸し切りバスへ乗り込み、次へと移動ですヘリパッド建設阻止のたたかいが組まれている高江へ着いたのは午後、阻止行動は早朝から午前中とのことで主立った機動隊は既に引き上げた後。それでもまだ、なにわナンバー・和泉ナンバー・横浜ナンバーのカマボコ(機動隊のバスを現地の人はこう呼ぶ)や指揮車車両などが路肩にす

らっと並んでいました。訓練基地ゲート前では民間警備会社 ALSO K の社員が立ち並び誰も一步も通さない構え、ここでも抗議のうたを響かせただけでした。

今では稻田防衛大臣の下、自衛隊の巨大ヘリコプターでヘリパッド建築機械や資材を工事現場へ直接空輸する方法も採られて急ピッチで工事が進行している模様、安倍政権の住民無視・米軍の言いなり姿勢がますます顕著になってきている怖さを感じました。

翌 27 日は予定通り世界遺産の今帰仁城址を見学した後、伊江島行きツアー中止のため、ちびちりがま・対馬丸記念館・旧海軍司令部壕などの見学へと変更、夜は沖縄のうたごえメンバーとの交流会、互いに歌い交わし、指笛の鳴らし方を教えていただき、カチャーシーの踊りで盛り上がり、最後は一同輪になって腕を組んで一緒に歌い、近い将来、日本のうたごえ祭典をまた沖縄で開きましょう、大阪のうたごえも協力を惜しませんと岡邑会長が表明、素晴らしい交流会となりました。

しかし、交流会冒頭で沖縄のうたごえ会長が挨拶された中に「本土と沖縄の民族差別」を感じるという話がありました。本土マスコミからの取材や報道も非常に少なく、沖縄に住んでいない国民は沖縄の現状を知らなさすぎることが、そういう危惧を沖縄住民に抱かせる要因の一つだと思います。本土に住む私たちが沖縄へ行き、現状をつぶさに知つることも大事だな、と感じた旅でした。

